

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800022		
法人名	有限会社ふれあい介護サービス		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	茨城県龍ヶ崎市貝原塚町3605-5		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0890800022&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあいの基本理念に基づき、 1、明るく楽しく笑顔あふれる新しい第二の我が家を目指します。ご利用者様がご自分のご自宅で生活していた時のように穏やかで安心した日々を送ることが出来るようお手伝いをさせて頂いております。季節を感じる行事や、広々とした緑豊かな環境の中で畑仕事やお茶のみをしています。毎日散歩に出掛けて季節の移り変わりを楽しんでいます。 2、個性を大切に、常に愛情を持って寄り添い信頼関係を築きます。ご利用者様のお一人お一人の個性を把握しその方のニーズに沿ったケアを日々考えるていくように努めています。昼食時には職員も一緒に食事をとり色々な話をして仲の良い人間関係を築けるようにしています。 3、地域の皆様方とふれあいながら開かれた施設になるように努めます。近所の方々が気軽に遊びに来て下さりお花やお野菜を差し上げたり、頂いたりしております。ホームで孤立することなく、買い物やお食事等外出をしています。ホーム主催の納涼祭、餅つき大会には近隣の方々をご招待させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念に沿い、地域の一員として、第2の我が家で利用者一人一人に合った主体性・自立に向けたケアに努めている事業所である。自然環境に恵まれ立地で、近くの牧場に散歩に出かけ自然を満悦している利用者の姿が目に見え、そこで、地域の方々との会話を楽しんでいる。アニマルセラピーを取り入れ、犬との触れ合いに利用者様は心穏やかな一時を過ごしている。管理者・職員間は仕事に対する向上心が高く、日々、意見交換・話し合い利用者本位のケアにあたっている。地域住民からお花やお野菜の提供を受けるときもある。震災以来エコのため入浴支援は3日毎であるが、その分個別対応に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時の職員研修にてスタッフ全員でふれあいの理念を創り上げ、地域の中で共生することを掲げています	開設時に全職員と作り上げた、3点の理念を事務所・玄関・ユニットに掲示したり、名札の裏に携帯し、管理者・職員はその理念を共有し日々のケアにあたり、確認し実践につなげている。カンファレンス時にも、話し合っている。職員からは利用者との信頼関係を大切に、個人個人に合ったケアの提供につとめていると話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けて地域の方にお会いする時には御挨拶をして、ホームに気軽に遊びに来て下さるようお声を掛けさせて頂いております。お花やお野菜を持って遊びに来て下さっています。	自治会に加入し、地域の環境美化・イベントに参加したり、散歩時には挨拶を交わしている。野菜やお花の提供を受ける時もある。ボランティア(落語会・傾聴)訪問がある。事業所主催のイベント(納涼祭・お餅つき)には多数(約100名)の住民参加がある。地域住民から介護に関する相談を受けアドバイスをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からのご相談を受けてお手伝いをさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お忙しい中、お集まりをいただき、貴重なご意見をいただきサービス向上に努めています	民生委員・区長・家族・行政・事業所関係者の構成メンバーで昨年度は2回開催。年間行事報告・研修報告・インフルエンザ対策・消防、避難訓練・アニマルセラピーについて報告した。家族からは感謝の言葉が多い。職員にはカンファレンスで報告し共有している。	運営推進会議の意義を考え、回数を増やし実りある開催を期待する。全家族に参加を呼びかけているが、欠席者へ報告していないので、事業所の取り組みを伝えることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を受け協力関係を築けるように努めています。	運営推進会議の参加の他、日ごろから連絡を密にして、情報交換やアドバイスを受け協力関係を築いている。ケアマネ会に参加し、行政指導の講演会や事例報告等に参加。ジュニアボランティア(小・中学生)に体験学習の場として提供している。	

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内に虐待の防止・早期発見の為にポスターを掲示し理解に取り組んでいます。玄関を開放し、常にご利用様に寄り添うケアを実践しています。	身体拘束の対象となる行為・弊害について職員は理解しており、拘束をしないで安全に向けたケアに取り組んでいる。拘束しざるを得ない場合は(何度も職員と話し合いを行ったうえ)家族に説明し同意を得ているが、常に改善に向けた取り組みを全職員で行っている。外出傾向の利用者には一緒に出かけている。スピーチロックにも注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、ダメ、待って等言葉の虐待にも注意を払いチームで防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な方には社会福祉協議会をご案内しています。職員は社内研修にて学習をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分な御理解を頂けるように丁寧な説明を心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見、要望を頂き運営に反映させております	運営推進会議・面会時・電話連絡時に意見・要望を聞くように努めている。家族からは感謝の言葉が多い。利用者の様子は毎月請求書と一緒にスマイルたよりを発送している。担当職員が変更になったときは便りや面会時に挨拶をしている。	意見の言い出しにくい家族に対し、重要事項説明書に第3者として国保連・行政担当課と電話番号並びに、苦情解決責任者名の明記が望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、気付きノートを活用してスタッフが気軽に意見を言える環境を整えています	カンファレンス会議・気づきノート・日々のケアでの提案・意見を聞き、話し合っている。月1回の交流会をしたいと言う職員の要望があり、お茶会を開催するようにした。現場の意見や提案はその都度話し合い、反映させている。職員は管理者には何でも話しているので、ストレスや不満は無いと言う事が聞き取り時に確認された。シフトや研修は希望どおりである。研修後は記録・報告し全職員で共有している。	

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努めています。今後も引き続き努めていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修を積極的に行い、個々のスキルアップを図っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、機会を設けるように努力していきます		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とゆっくり向き合う時間を確保して傾聴を心がけています 寄り添う姿勢を大切にしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同様、お話させていただく機会を頂き傾聴を心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される以前の情報をアセスメントして真のニーズ把握に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にも出来ることはお手伝いをして頂き役割を持って共生することを大切にしています		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事にはご家族様をご招待させて頂きご利用者様との絆を大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り関係が継続出来るように、支援を行っております	電話・年賀状で家族・友人との交流を深めている利用者がある。要望が出れば家族の協力も得て、支援につなげている(毛染めを買いたいと言う利用者と一緒に買いにいたり、お墓参りなど)。家族と外出し外食を楽しんでくる利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流を深められるように職員がお手伝いをさせて頂いております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望に沿う形でお手伝いをさせて頂いております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の担当職員を配置して、よりきめ細かい気付きをあげ適切なケアが出来るようにつとめております	アセスメント・日々の会話から利用者の思いや希望・意向の把握に努めている。職員の気づきを記入し全職員で共有している。自己表現の困難な利用者には表情から把握したり、家族から情報を得て職員間で検討し、本人本位になっているか確認している。自宅から引続き新聞を購読している利用者がある。利用者の趣味のハーモニカ・詩吟を職員は教わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からのヒアリングに重点を置き、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーと連携をとり把握に努めております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の担当職員を配置して、よりきめ細かい気付きをあげ適切なケアが出来るようにつとめております		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで介護計画の素案を作成し、ご家族様のご意見を取り入れチームで取り組む介護計画を作成しております	家族・利用者の意見や思いを聞き、カンファレンス会議(2か月毎)を開催。担当者が記入した個別ケアシート(食事・入浴・排泄・ホール・居室・その他)・ケース記録から、利用者の課題とケアのあり方について話し合い、現状に即したケアプランを作成。作成後は利用者・家族の同意を得ている。モニタリング・評価を6ヶ月ごとに実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、個別ケアシートを活用して見直しをしております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成観念に縛られずに柔軟な対応が出来るように努めていきます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用が出来るように情報収集して支援しております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでのご様子をご報告させて頂き、適切な医療を受けられる様に支援させて頂いております	家族付き添いで今までどおりのかかりつけ医に受診している。(都合が付かないときは職員が付き添う)受診後の報告を受け、受診記録・介護記録に残している。歯科・他専門医の受診も可能である。協力医院の往診は隔週あり。(希望者)	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、ホームでのご様子をご報告させて頂き、適切な医療を受けられる様に支援させて頂いております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカー、関係者の方々と連携をとることが出来るように関係づくりを行っています		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と密に連絡をとり方針を共有してチームで支援が出来るように取り組んでいます	家族・利用者に入居時に説明をしている。今後は研修を重ね、検討していきたいとの事。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行い、実践力を身に付けられるように取り組んでいます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にご協力頂き、年に2回避難訓練を行っております	消防署指導の下、年2回の訓練を実施(避難経路確認・利用者の行動把握・消火器使用方法・夜間想定・通報・緊急連絡網等)。3・11大震災時は家族に利用者の安全確認報告の電話連絡以外に、特に困ったことは無かった。広域避難場所は家族・職員とも周知済み。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の重要性を理解し、常に念頭においてケアに努めております	利用者に対しては人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。書類関係は事務所内で保管し個人情報保護に努めている。写真等の掲載に関しては今後、同意書をもらうとの事。外出レクは家族から同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が感情の表出が出来るように、日頃から信頼関係の構築に努めております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならない、利用者様主体のケアが出来るように努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに沿ったお手伝いをさせて頂いております		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好の把握に努めております食事の準備、調理など一緒に行っております	利用者の希望を聞き、職員が献立をたてている。利用者が下膳を行っている、職員から「有難うございます」と、感謝の言葉があった。食事形態等個別支援を行っている。職員と一緒にテーブルで和気藹々とした食事風景であった。月1回の外食は利用者の楽しみとなっている。レクの中におやつ作りを取り入れ、利用者が力量を発揮する事で、意欲向上に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事摂取量、水分摂取量を記録して、個別の対応が出来るように支援しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアを行っております		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握して、利用者様の自立に向けた支援を行っております	排泄チェック表・パターン・利用者の表情から把握し声掛けを行い、トイレに前誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。尿量を把握しリハビリパンツ・パットを使い分けている。リハビリパンツから布パンツに改善できた人が多い。失禁時の対応や自立の人の排泄後の着衣の乱れ・汚れは他の利用者に分からない様に、さりげなくチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修において便秘に対する理解を深め、排泄チェック表を活用し個々に適切な支援が行えるように取り組んでいます		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の決まった時間に行っているのが現状です。個々に沿った支援の重要性については職員が理解できるようにしています	震災後はエコのため原則的には2日おきの入浴支援を行っている。(午後からの入浴) 拒否者には職員で検討を重ねた(声掛け方法等)結果、喜んで入浴するようになったとの事。。りんご湯・お茶風呂を提供しゆっくり入浴出来る様にしている。足拭きマットは皮膚病感染予防のため個人用を使用。異性職員を拒む利用者には同性職員で対応。入浴時に全身(爪も)のチェックしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に沿ったお手伝いを行っております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性について研修を行っております。与薬にはミスがなように与薬チェック表を作成しチームで確認を行っております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様、ご家族様、ご友人様からも生活歴をお聞きして活気のある生活を支援させて頂いております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、要望に応じた個別対応を行っております	お天気のよい日は散歩に出かけ、外気を浴び、五感の刺激を受けている。初詣・つるし雛見学・牧場へと外出の機会が多い。調査日は庭先で体操・散歩を行っていた。家族と外出し会食や友人・親類に会いに行く利用者がいる。買物は曜日を決めて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、ご希望のご利用者様には、お手伝いをさせて頂きながら買い物を楽しんで頂いております		

茨城県 グループホームふれあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、なじみの関係が継続できるように支援させて頂いております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で安心できる環境を保てるように配慮しております 季節感を取り入れた飾り物や掲示物の作成をご利用様と行っております	桃の節句にあわせた段飾りのお雛様や花を飾り、利用者や訪問者を暖かく迎えている工夫があった。壁には利用者が丁寧に書いた、ペン習字が飾ってあった。トイレ・リビング等の共有空間は職員が毎日掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろげる環境や、ホールにソファを用意したりゆったりとした空間を提供しております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には、ご自宅で使用していた馴染みの家具などをお持ちいただき居心地の良い居室になるようにしております	家族に使い慣れたものが利用者にとって安心できる居室となることを説明し、仏壇・テレビ・筆筒・姿見等を安全面に配慮し配置している。位牌・小物・家族の写真を飾り、利用者が心地よく過ごせるような居室となっている。居室の掃除は利用者と一緒に毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の有する能力を最大限活かして、自立した生活が送れるようにお手伝いをさせて頂いております		

目標達成計画

作成日: 平成 24 年 4 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み 昨年度の開催は2回でした。欠席の方への議事録の送付を行っていませんでした。	運営推進会議の意義を考え、回数を増やし、参加者の皆さまから多角的、貴重な意見を頂きホームのより良い運営に取り組めます。	開催月を決めて、計画に沿って運営推進会議が開催できるようにします。欠席の方にも議事録をご覧いただくように努めます。	9ヶ月
2	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映 重要事項説明書に第三者機関の記載がなく、意見を言い出しにくい環境でありました。	運営に関する言い出しにくい意見等を、把握できるような環境を提示させていただきます。	重要事項説明書に、第三者として国保連・行政担当課と電話番号、責任者名を明記します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。